

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT
2015.5. VOL.27

contents

極 研究&教育
Current topics in research and education

人 時の人
People in the news

技 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

和 お知らせ
Information

人が集う医学研究科・医学部を目指して

本年4月より2期目の医学研究科長・医学部長を拝命いたしました。何卒、宜しくお願い申し上げます。

この3月には87名の卒業生を送り出しました。本誌が発行される頃には、それぞれの研修先で活躍を始めていることと思います。また、今年度から愛知県のご理解を得て地域枠の定員を2名増員し、97名の新生を迎えました。新緑の季節にふさわしい、初々しい雰囲気がキャンパスに満ちています。

これまでの2年間には、未来医療人材養成拠点形成事業「地域と育む未来医療人「なごやかモデル」」を開始し、さらには、「不育症研究センター」の設立し、本年4月に文部科学省より「共同利用・共同研究拠点」の認定を受けました。関係の皆様のご尽力に、紙面をお借りし改めて御礼申し上げます。

現在、医学研究科では、いくつかの改革が進行中です。教育面では、本年の新生から、医学部教育の国際認証に向けた新カリキュラムを開始する予定です。また、大学院の修士・博士課程においては、留学生が入学しやすいよう秋入学制度を導入し、一部の講義を英語で行い、国際化に向けた取り組みを始めます。また、教授(診療担当)の制度を新設し、附属病院の診療機能の強化を図ってまいります。

このような多くの課題に取り組むため、本年度より、副研究科長を4名に増員していただき、中西真教授(研究推進)、道川誠教授(入試・FD)、木村和哲教授(学部間連携)、齊藤伸治教授(教育)にご着任をお願いしました。また、研究科長補佐として、酒々井眞澄教授(大学院・修士)、飛田秀樹教授(大学院・博士)、祖父江和哉教授(臨床実習)の3名の先生をお願いしました。

既に、先号の本誌でご紹介しましたように、昨年10月に「名古屋市立大学憲章」と「名市大未来プラン」が制定され、この先15年の大学の進む方向性が示されました。また、附属病院においては、「サクラ咲くプラン」が発表され、10年後を見据えた新たな取り組みがスタートしています。医学研究科においても、7月頃を目標に「医学研究科未来プラン」を策定する予定です。今後、草案をお示ししながら議論を深めたいと考えており、多方面から活発なご意見をお願い申し上げます。

医学研究科・医学部の使命は、教育・研究・診療・社会貢献にあります。研究面がおろそかになってしまえば、大学の魅力が半減してしまうと思います。その研究を担う人材を育成するためにも、学部・大学院教育のさらなる充実が必要だと思います。これらを実現するためにも、学生から専門医・研究者まで含めた人材育成のあり方を考え、多くの人々に名市大で、研究・診療に活躍していただけるよう、魅力ある医学研究科・医学部を築いて行きたいと思っております。

今後とも、関係の皆様には、引き続きご指導とご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



医学研究科長・医学部長
浅井 清文

“瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPOINT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

連携病院

連携病院一 稲沢厚生病院

当院は稲沢市西部、木曽川のすぐ東に位置する総合病院です。平成24年より施設の大規模改修事業を進めており、昨年11月4日には南館が新築オープンし、現在は本館の改修工事中です。本年夏には旧施設の解体や外構工事を含めて全ての改修工事が終了する予定です。また、昨年の南館オープン時には病院名をこれまでの尾西病院から稲沢厚生病院に改称しました。これは東西に長い稲沢市において、地元の祖父江町をはじめとした市西部の地域医療を担う中核病院としてより広く認知してもらうためです。

当院の特色は、急性期から慢性期医療、健診、介護・福祉まで幅広く地域医療に貢献する、地域密着型の総合病院（標榜診療科19科、総病床数300：一般病床199、精神病床51、療養病床50、その他に訪問看護、訪問介護、居宅介護支援センター、地域包括支援センター、健康管理センターを併設）であることです。なかでも中心をなすのは急性期医療です。とくに救急医療は当院の重要な機能の1つであり、多くの救急患者を受け入れています。また、災害拠点病院としてDMATを編成し、機能整備を進めています。

急性期医療に加え、2025年問題という言葉に象徴される超高齢社会の到来に対応すべく、今後は地域の医療施設や介護施設との連携をさらに高め、地域完結型医療の充実を目指していきます。その一環として本年夏より地域包括ケア病棟を開設する予定です。また、精神科病床を有する総合病院であることも特色の一つで、精神科患者の身体合併症の診療も積極的に行っています。

臨床研修の面では、当院は基幹型研修指定病院として、保健所以外の殆ど全ての領域を院内で研修できる点が強みです。初期・後期研修医間での屋根瓦方式の指導体制もあり、診療科（全診療科が名市大から医師の派遣を受けています）間や他職種との垣根も低く、アットホームな雰囲気の中で、研修医は見学だけではなく実践的な研修を行っています。 稲沢厚生病院 院長 眞下啓二



右手前が新しい南館、左奥が本館



大型デジタルサイネージを設置した
エントランスホール



新規稼働の救急外来処置室



中庭にはベネチアングラスの
モニュメントを配置

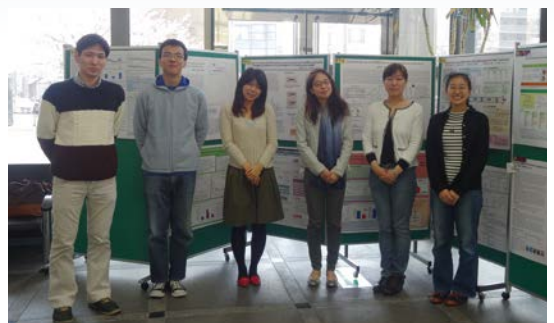
教育

基礎自主研修から飛び立て! 未来の良医たち

本学医学部を卒業する学生諸君の多くは、臨床医として我が国の医療の第一線で活躍することが期待されている。真に力ある良医を下支えする基盤能力の開発を目的に、基礎自主研修がある。“科学的思考・実践の修得”である。論理的な思考能力と、未知の現象解明にアプローチする“科学者”の目と手足の鍛錬こそ、基礎自主研修が諸君に提供する良医の武器なのである。

今年度も、11月から2月末まで基礎自主研修が行われた。その成果発表会では、4つのセクションから1名ずつの最優秀賞と計9名の優秀賞が選出された。受賞者のポスターは、研究棟1階ロビーに1ヶ月間展示され、その健闘が称えられた。写真は、受賞者とそのポスターである。受賞してもよし、受賞を逃してもよし。真剣に取り組んだ者だけが、科学的思考と実践の貴重な経験を得ることができるのである。それは将来、医師としての成長・発展に必ずや生きてくるに違いない。次の3年生も積極的に参加し、研究の醍醐味を体験して欲しい。願わくばその中からMD-PhDコースに入る志の高い優秀な学生が多数出現することを、更に世界に飛躍する研究大学・名市大の原動力たらん人材が陸続と現れることを期待している。

H26年度 基礎自主研修世話人 道川 誠(生化学1)



受賞ポスターと受賞者



Kuno Toshiya

久野 壽也(くの としや) 実験病態病理学(准教授)

専門:実験病理学、人体病理学

2013年10月より本学に勤務しています。歴史、実績ともに発癌研究分野のトップである当教室の一員となることができ、たいへん光栄に思っています。研究は主に大腸発癌モデル動物を用いて癌予防物質の検索と制御機構の解析を行っています。癌は遺伝子の病気であり発生機序は様々ですが、食物や大気中の物質の摂取や持続感染による遺伝子修飾がその多くを占めていると考えられています。原因の排除が根本的な予防法といえますが、社会的な課題も多く、予防物質による癌制御のアプローチは有効なツールであると考えています。将来的には特定臓器の発癌リスクを有する集団に対して提示可能な予防物質を発見していきたいと考えています。

近年の論文:Oncology Letters 2015 in press, Int J Mol Sci 2014; 15:9160-72, Carcinogenesis 2013; 34:361-9, J Biophys Chem 2012: 516981



Kato Hideaki

加藤 秀章(かとう ひであき) 法医学分野(講師)

専門:分子進化学、DNA多型、臨床法医学、肝臓病学、感染症学

近年、死因究明推進法の制定等により、社会の積極的な死因究明に対する機運が高まるに伴い、法医解剖数が急激に増加しています。従来の古典的な法医学的手法に加え、近年、Autopsy Imaging (Ai)などの新たなモダリティが導入されるなど、法医学では、臨床医学、放射線画像診断学などの幅広い知識が必要とされるようになってきました。私は、肝炎ウイルスの分子進化学的研究、ミトコンドリア遺伝子やSTRを用いたDNA多型を中心とした研究を行っています。DNA多型では、個人識別のみならず、多型の遺伝子型分布や疾患との関連を研究しています。今後は、実務的な面においても臨床医学の優れた診断技術をどんどん法医学の分野にも導入したいと考えています。

近年の論文:Eur Neuropsychopharmacol 2014 Aug;24(8):1362-70, J Forensic Sci 2013 Nov;58(6):1673-5, Electrophoresis 2013 Dec;34(24):3361-9, Leg Med (Tokyo). 2013 May;15(3):157-60, DNA Cell Biol. 2012 Jan;31(1):36-42.



Ito Jinichi

伊藤 仁一(いとう じんいち) 病態生化学(准教授)

専門:神経生化学、細胞生物学

ここ15年ほど、中枢神経系アストロサイトによる脳のコレステロールホメオスタシスにおける作用とその機構について研究しています。脳は体全体のコレステロールの約20%を占めるほどの高コレステロール含有器官であり、依存性の高い器官でもあります。これは神経系細胞特有の変化に富んだ形態と広い細胞表面積に由来するものです。脳のコレステロールは血液脳関門の存在により血中のリポタンパク質からコレステロールを吸収する事ができません。従って、脳内で供給しなければなりません、これに大きく貢献するのがアストロサイトです。アストロサイトはapoE/HDLを活発に産生し、各種神経系細胞にコレステロールを供給しています。私はアストロサイト細胞内のコレステロール輸送に関与する cytosolic lipid-protein particles (CLPP) を見だし、CLPP における情報伝達および細胞骨格との相互作用を研究しています。また apoE/HDL 分泌機構および脳内液性因子を介した制御機構を合わせて研究しています。脳内でのコレステロールホメオスタシスに関わる機構が少しずつ明るくなってきました。

近年の論文:Brain Research 2014: 1563: 31-40, Brain Research 2014: 1570: 1-12, Biochim Biophys Acta 2014: 1841: 1234-1240, J Neurosci Res 2014: 92: 455-463, J Lipids 2014: 2014: 1-9, Brain Research 2015, in press, J Curr Enz Inh 2015, in press



Takeda Yutaka

武田 裕(たけだ ゆたか) 急性心臓疾患治療部(病院准教授)

専門:成人先天性心疾患、肺高血圧などの治療

子供のころから、難病の医者になりたい、と思っていたような気がします。自然豊かな環境にある療養所で、深い医学知識と人格力で、運命に耐える人々を静かに支える医師に。ところが学生時代にはまったのは循環器内科学。気が付くと、循環器難病の肺高血圧症を専攻していました。その結果、貴重な経験を実にたくさんさせていただきました。仕事はひとりでに、成人先天性心疾患の診療、肺移植前後の管理、3D臓器モデル、奇形症候群成人の全身管理と、予想しない方向へ進んでいきます。その中で数多くの素晴らしい出会いを経験できました。大学人としてはまことに能力不足な私に、子供のころの理想を今でも追わせてくれている母校には感謝しています。

近年の論文:BMC Res Notes 7:359 (2014), Circ J 77:2619-2622 (2013), Mod Rheumatol Dec 21:637-640 (2011), BMC Pulm Med 11:47 (2011), BMC Pulm Med 10:22 (2010)

新任教授のご紹介

腎・泌尿器科学分野— 安井 孝周 教授

この度1月1日付で腎・泌尿器科学分野 教授を拝命いたしました安井孝周(やすいたかひろ)と申します。私は、平成6年に名古屋市立大学を卒業し、東市民病院、海南病院などの赴任を経て、泌尿器科診療に携わってまいりました。

大学院では尿路結石の病態解明に取り組みました。結石にわずか含まれる有機成分のなかで、オステオポンチンが結石形成に必須であることを、遺伝子導入細胞や、ノックアウトマウスなどを用いて証明してきました。近年では、ミトコンドリアやマクロファージが関わる病態解明に取り組み、「尿路結石を溶かす薬」を目指して研究をすすめています。

診療では、おもに泌尿器がんに対する腹腔鏡手術、ロボット手術を専門にしています。腹腔鏡手術は、経尿道的手術とともに低侵襲治療として、手術の中心となっています。また、2011年より開始したロボット手術では、教室で全国有数の症例を経験し、先進医療としての開発に携わってきました。

今後は、世界に発信する泌尿器科を目指して、がん、尿路結石、先天異常、男子不妊症、排尿障害など、幅広い分野で患者さんの拠り所になれるような診療・研究体制を築きたいと考えています。そのためにも、教室員がそれぞれの専門分野で、「第一人者」として活躍し、若い医師が夢や目標を実現できるような環境作りを行ってゆく所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



安井 孝周 教授

名誉教授のご紹介

脳神経外科学分野— 山田 和雄 名誉教授

山田和雄先生は昭和49年に大阪大学医学部をご卒業になられました。医学生時代に既にECFMGにパスされており、昭和51年から2年半の間はニューヨーク州立Roswell Park記念研究所附属病院脳神経外科のclinical fellowとしてトレーニングを受け、昭和56年から大阪大学医学部脳神経外科助手、平成3年同講師、平成6年同助教授を経て、平成6年10月に名古屋市立大学医学部脳神経外科教授にご就任されました。

教授就任後は、研究面では分子生物学的手法を導入され、頭蓋内圧亢進、脳虚血、脳外傷、脳浮腫の病態解明に応用し、多く大学院生の指導と業績を残されました。臨床面では脳虚血性疾患に対する外科治療(とくに頸動脈内膜剥離術)の分野において、日本のtop surgeonとして多くの患者さんの治療を行うとともに、教室内のサブスペシャリティの確立にご尽力されました。学生教育では特に医学英語に力を入れておられました。また在任中、日本脳卒中の外科学会など、全国学会の会長を11回されておられます。

平成22年より2年間は名古屋市立大学病院長をおつとめになり、平成24年より名古屋市病院局長として現在も名古屋市の医療行政にご活躍中です。

文責:脳神経外科学 病院教授 間瀬光人



山田 和雄 名誉教授

02 時の人 People in the news

OBのご紹介

藤田保健衛生大学医学部 小児科 教授 伊藤 哲哉 先生

私は平成元年に名古屋市立大学医学部を卒業し小児科学教室へ入局いたしました。1年間の大学病院研修ののち豊橋市民病院で臨床研修を行い、当時の副院長、小児科部長であられた故・西村豊先生、副部長の鈴木賀巳先生(現渥美病院副院長)のもとで小児科臨床研修を1年半ほど行いました。平成4年1月に大学に戻った後は大学院にて、故・和田義郎学長のご指導で先天代謝異常症に関する研究に関わり、それ以来現在までその診療に携わっております。先天代謝異常症とは、生まれつき栄養分などの代謝が障害されることにより生じる疾患で、個々は非常に希少な疾患が多いのですが、その種類が多彩なため決して稀ではありません。近年では酵素補充療法の発展や新規治療薬の導入、新生児マススクリーニングの対象疾患拡大など新たな動きも多くみられております。今回、縁あって平成26年4月から藤田保健衛生大学医学部小児科でお世話になり、引き続き先天代謝異常症の診療に当たらせて頂いております。同窓の先生方には今後も何かとお世話になることと存じますが、引き続きご指導頂きますようお願い申し上げます。



伊藤 哲哉 先生



名古屋市立大学 薬学部 教授 青山 峰芳 先生

この度2015年2月1日付けで、薬学研究科教授を拝命いたしました。

私は1993年に名古屋市立大学医学部を卒業後、小児科医師としての実践的な経験の中で未解決な問題の多さを痛感し研究を始めました。大学院へと進学し、がん研究振興財団リサーチレジデントを経て、2003年から医学研究科浅井清文教授のもとで、自分自身の研究者としての成長と大学院生の研究指導、そして学部生への教育、さらには米国留学というたいへん充実した経験をすることができました。またこの間、第2回瑞友会賞(学術部門)をいただき大変勇気づけられました。

母校名古屋市立大学での生活の中で、自分らしさをいかす可能性を模索していたところ、ご縁がありこの度薬学研究科への赴任となりました。赴任にあたり多くの同級生や研究仲間から言われたことは「薬学と医学の橋渡しをよろしく」です。薬学部と医学部をもつ名古屋市立大学の強みを最大限活用し、チーム医療を得意とする薬剤師を育成したいと思います。さらに、世界にははたたくたくましい薬学研究者を育てていきたいと思っています。

これまでにご指導およびご支援いただきました方々への感謝の気持ちを忘れず、努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



青山 峰芳 先生(研究室にて)



薬学研究科北側からの風景



同僚の岩城先生と

不育症研究センター

祝! 不育症共同研究拠点認定

このたび文部科学省「特色のある共同研究拠点」に私たちの申請した「不育症・ヒト生殖メカニズム解明のための共同研究拠点」が採択されました。ご協力いただいた多くの方々にご場をお借りしてお礼申し上げます。

私たちは不育症の原因を解明するために、細胞生化学、公衆衛生学、衛生学、精神科、泌尿器科を始めとする医学部の皆様や学外の皆様と共同研究を行ってきました。3月1日には附属病院に「不育・不妊センター」を、昨年11月1日には医学部に「不育症研究センター」を設立していただき、日本初「不育症研究拠点」認定を獲得することができました。



不育症・習慣流産の研究の歴史

不育症とは、「妊娠はするけれど流産、死産を繰り返して児が得られない場合」をいいます。習慣流産は3回以上連続する流産であり、不育症に含まれます。鈴木貞夫教授とともにに行った「岡崎コホート研究」では不育症、習慣流産の頻度が4.2%、0.9%であることが本邦で初めて明らかになりました。20人に1人が罹患していますが、不育症の認知度は不妊症ほど高くはありません。これは、わが国に女性は子供を産んで一人前であるという「母性神話」が存在するため流産が隠された結果と考えています。不育症研究拠点の設立によって、不育症の認知度が向上し、患者さんの気持ちが救われることが期待できます。

故八神喜昭名誉教授、青木耕治先生らが習慣流産に対する免疫療法による国内初の出産例を1983年に発表して以来、名古屋市立大学に習慣流産の患者さんが集まるようになり、臨床研究が始まりました。1999年には夫リンパ球と生理食塩水を比較する二重盲検試験によって免疫療法の有効性は否定されましたが、当時は3回流産すると次回は100%流産すると誰もが信じていました。現在では薬剤投与をしなくても既往流産が2回であれば80%、3回で70%、4回で60%、5回で50%の患者さんが出産可能であることがわかりました。散発流産のみならず、習慣流産においても胎児染色体異常が重要な原因であることを世界で初めて報告しました。

不育症共同研究拠点の役割

習慣流産に対する着床前スクリーニングが出産率改善に有効かどうかを調べる多施設共同研究を実施します。染色体数異常が原因の患者さんに対して、受精卵を網羅的に調べて正常な受精卵を子宮に戻すこの技術は欧米では流産予防のために行われていますが、わが国では倫理的な理由から日本産科婦人科学会が禁止してきました。3年間で200例の無作為割り付け試験を学会主導で実施し、私たちが研究のとりまとめを行い、この技術の是非を議論していきます。

私たちはFXII遺伝子が流産関連遺伝子であることを世界で初めて報告しました。しかし、この遺伝子多型の臨床的影響は小さく、臨床的に有用な遺伝子変異は見つかっていません。臨床的影響度の大きな難治性習慣流産遺伝子を見つけることが今後の課題です。

さらに、遺伝学的技術や不育症の知識を若手研究者に伝えることも拠点の目的の一つであり、Hands on Seminarや講演も実施します。今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

産科・婦人科学 教授 杉浦真弓

学生生活

2月14日なごやかモデル公開シンポジウムで 医学部1年生(現2年生)が発表しました!



Aグループ 茜部 遼平さん

Aグループ(桜山商店街地域担当)では例年とは趣向を変えて、地域の親子向けの医療体験イベントを市大病院臨床シミュレーションセンターにて行いました。新企画ということで、今後の活動の新たな私たちの一例となったと自負しており、次年度からも意欲的な発展を期待しています。



Eグループ 松本 大輝さん

私たちのグループは、「地域医療に活用する患者中心の脳卒中ノートの作成と評価」という演題で発表しました。

先輩方から活動を引き継ぎ、私たちの代で新たに改良を加えた脳卒中ノートを実際の患者さんに試用していただくことで、今後の課題や改善点などが見つかりました。



Vグループ 野崎 耀志郎さん
山本 彩未さん

私たちのチームは、発達障害児たちとの交流を通して、彼らが「未体験のこと」を怖がることを学びました。そこで、発達障害児たちの問診への恐怖を軽減し、またきちんとした予防によって彼らの健康を守るために、問診についての寸劇と手洗いの講座をまとめた「げんきもりもり教室」を開催しました。

「オリター」のお仕事について紹介します!

名古屋市立大学では、入学から1週間ほど新入生歓迎期間があります。この期間中に新入生は様々な活動を通して同級生との仲を深め、学校に慣れていきます。この新入生を誘導したりレクリエーションを企画・実行したりして、新入生を楽しませることが「オリター」の仕事です。オリターは各学部の新2年生を中心に構成され、新入生歓迎委員会の方々と協力して全力で新入生をもてなします。この良きオリター制度の伝統はこれからも続いていくと思います。

名古屋市立大学医学部2年
オリター代表 松本大輝・谷川祐太郎



新歓パーティー後のオリター集合写真

白衣授与式 —5年生臨床実習の始まり—



白衣授与式

患者さんと接することになり、責任感を持った態度でのぞむ必要があります。日々の実習において患者さんから学ぶことは山ほどあります。実習白衣に誇りを持って、知識を増やし、経験をつんで、患者さんから信頼される医師を目指していただきたいものです。

教員もより良い教育、より良い学びの場を提供できるように努力していききたいと思います。

文責 カリキュラム企画・運営委員会 BSL小委員長 祖父江和哉(麻醉科学・集中治療医学分野)

2015年3月30日に白衣授与式が行われました。医学部のロゴと各自の氏名が刺繍された白衣が、医学部同窓会「瑞友会」から寄贈されました。当日は、瑞友会会長の奥村恪郎先生より学生へ白衣授与と励ましの言葉をいただきました。

新しい白衣をはおり、4月6日より附属病院における臨床実習が始まりました。これからはStudent Doctorとして

最新医学講座オープンカレッジのご案内

本講座では、主に医学について、本学の各専門分野が蓄積している最新の重要な教育研究情報を、わかりやすく解説します。

- 【開催日時】 第2期 平成27年9月～10月各金曜日 午後6時30分～8時 全8回
 第3期 平成27年11月～平成28年1月各金曜日 午後6時30分～8時 全8回
- 【開催場所】 桜山キャンパス 医学研究科・医学研究棟11階 講義室A
- 【募集対象】 一般
- 【定員】 各期80名
- 【受講料】 8,000円
- 【応募方法】 往復はがきまたはeメール
 第2期 平成27年7月27日(月)～平成27年8月14日(金)(締切予定)
 第3期 平成27年10月5日(月)～平成27年10月23日(金)(締切予定)
 詳細はホームページにて各期約1か月前に掲載予定
 URL:<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/>
- 【問い合わせ先】 名古屋市立大学医学部事務室 オープンカレッジ担当
 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
 TEL:052-853-8077 eメール:igakubuoc@sec.nagoya-cu.ac.jp



【医学振興】寄附金ご協力のお願い

本学は、平成18年4月、公立大学法人として新たな一歩を踏み出し、教育・研究活動をより一層活性化させるための財政基盤の確立を目的として、同年8月「公立大学法人名古屋市立大学振興基金」を設立いたしました。本学に課せられた使命を着実に果たしていくためには、優れた教育・研究・診療環境の整備、充実が必須であり、広く皆様からの財政的ご支援をお願いしてまいりたいと存じます。なお、これまでに寄せられたご寄附は、既に研究棟の改修や身障者用トイレの設置等、環境整備のために有効に利用させて頂いております。

皆様におかれましては、この基金の趣旨をご理解いただき、「市立大学振興基金(医学振興)」にご賛同賜りますようお願い申し上げます。



今年度は、講義室3について学生が授業に集中できる環境を整えたいと考えております。
 ご賛同していただける方は、寄附に対する格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※寄附金については税制上の優遇措置が設けられております。詳しくは、下記担当までお問い合わせください。

問合せ先 **ご賛同いただける方には** **名古屋市立大学医学部事務室 基金【医学振興】担当**
ご案内をお送りします。 TEL:052-853-8077(土・日・祝日を除く9:00～17:00) FAX:052-843-0863

ひとつこと☆メッセージ募集!

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!無沙汰している同級生に、恩師に…ワイワイ楽しいお便りお待ちしています。ほっと和む「名市大人のつぶやきコーナー」をみなさんと作りたと思います。

例えばこんな一言を、

- 研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」
 ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」
 新米医師のつぶやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」
 などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。(注:次回掲載は9月号です)

- 1.一言メッセージ(30字以内) 2.卒業年度 3.お名前(ふりがな) *匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。*4.住所 5.電話番号またはE-mailアドレス

《受付》〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 E-mail:igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp
 名古屋市立大学医学部広報誌「一言メッセージ」係宛

お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使用いたしません

広報誌：瑞 医(ずい)
 発行：名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部
 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
 TEL(052)853-8077 FAX(052)842-0863

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>

※次号の発行は平成27年9月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

**我こそは
 通信員!**

広報誌「瑞 医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp または医学部事務室 広報担当まで